

負荷であり、破綻を來すは然必である。

之に道路、公園及び都心部の分散に就いて考慮する必要が生ずる。即ち都市の發展は自然膨脹に委すべきものにあらずして、時世の要求に準して、確固たる計畫を都市民生活の安住地たらしめねばならぬ。

現在我國に於て計畫されつゝある道路網は、先づ其の第一着手として不取敢行はれたるものであつて、市の大動脈として道路系統を指導するものであり、其の發展を有機的

に導いて文化都市を建設せんが爲である。併し乍ら我國の

現狀が新都建設にあらずして市街地に於て其の改良、救済であり、郊外地に對して其の合理的發展の誘導を使命とするものであつて各都市傳來の歴史を無視して行ふことは全く不可能であり、又然るべきものでもないものであつて、夫々の地勢、從來の街路、或は交通狀態を考慮し道路網を定め、之と並行に公園系統の確立地域の決定と相俟つて初めて完全なる都市發達の指導をなし得るものである。(完)

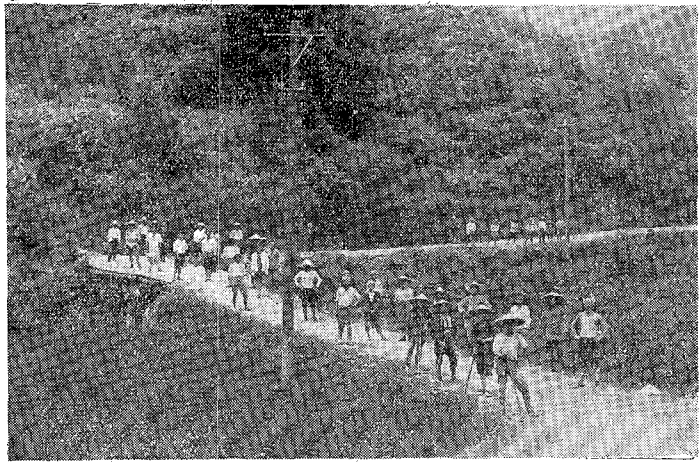
## 石川縣下志雄村の道路愛護

### 王 之 波

晚近自動車の加速度的發達と地方道路の不整備とに鑑み地方民衆の公共心を喚起し社會奉仕の美風を作興し勤勞を以て自治の實績に貢獻せんとして各府縣に道路愛護會が組織せられ著々其効果を收めつゝあることは吾人の衷心から

歡喜に堪へざる所である。素より此の如き實質な事業は廣く世間の賞讃を得難きもので其實行は容易ならざる苦心と努力とを要する仕事であるが石川縣羽咋郡志雄村の如き中村長久氏外同志が多年精神を傾注して盡瘁する處があつて

同地方の道路愛護事業は非常な成績を擧げて居ることは本誌の既に報道せる所であつたが中村氏等は當に同地方に於て斯事業を實行するに止めないで更らに機關雜誌「道路愛護」を刊行して以て普く其思潮に掉して其普及徹底を企圖することとした。其創刊號を一讀するに石川縣に於ける土木關係の官民協力之を後援し地方稀に見る一雜誌としての内容と體裁を備ふるものであることは敢て吾人の贅言を要しないのであるが中村氏等の慘怛なる苦心努力は察するに餘りある所である。都會地に於てすら繼續して雜誌を發行するのは難事とせらるゝが、地方に於ては更らに一段の困難の伴ふことは明瞭なる事實である希



愛護最も大切なり。

はくば愈々益々奮闘努力し所謂三號雜誌に終るが如きことなきを祈るものである、尙本年七月初旬志雄村道路愛護デーに於ては縣土木課の指導に依り數種のポスターを作りて宣傳に用ゐ、或は手拭を作つて従事員に配布する等大に意を用ゐて其功果を大ならしめんことを期したのである、其作業に關する一般注意の如き廣く參考とするに足ると思はるので之れを左に掲ぐることにする。

#### 作業に關する一般注意

一、道路の保全 は路面の形狀と排水の良否に依り些細の排水停滞水が道路破損の因となり僅少の破損が大破の基となる平時の

二、崩壊土の取除 崩土は畚其の他の器具を以て指揮に従ひ路面外へ取捨つへし。

三、耳削り 路面の耳削は路面中より約三寸低く圓形に削り取り雜草共通行上支障なき個所に取捨つべし。

四、溝掘り 溝堀は深さ約一尺に掘下げ土砂は指揮者の指示の個所へ取捨て溝より法部高約一米餘の雜草は刈取ること。

五、水吐き 水吐きは幅二尺以上深さ三寸を三間乃至五間毎に設置するものとす。

六、砂利敷 路面の凹部分には其の周圍と同高に砂利を敷き少量の粘土を撒布し砂利の散亂せざる様施行するものとす。

目下整備中の砂利は特に土木出張所吏員の指示する個所に限り撒布するものとす。

七、路面不陸直 不陸直は路面の輪轍凸凹を平衡に切均し荒石は抜取り最寄の砂利配置場へ運搬するものとす。

八、法面の保護 道路兩側の法面に繁茂する樹木雜草は通行者の見通し並に道路面乾燥の爲之を伐採するものとす。但し法面の雜草雜木は根元より一尺程度に之を伐採し根元及根は之を殘し土砂の崩壊を防止せしむること。

ガンダク

山深し河鹿に宿の灯更けて

雲去來す山險はし瀧高しそのこだま

雲の峯富士を左に日を右に

ピンシー

月は窓に動く蚊帳の夢まどか

山坊の蚊帳に月の法話かな

名も知らぬ蟲に蚊遣りの讀書人

珠算して利殖に疲れ晝寝人

沙丘越ゆる日傘と日傘裸か人